

コスモ石油エコカード基金 活動報告書 2012

第10期2011年4月1日～2012年3月31日

コスモ石油
エコカード基金

ずっと地球で暮らそう。

- P1 理事長メッセージ
里親プロジェクトの実施
- P2 「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトについて
～新しいプロジェクトが増えました
- P3 トピックス
- P4～6 プロジェクト紹介 (2011年度の活動報告)
- P7 収支報告
コスモ・ザ・カードのご案内
- P8 エコカード基金ホームページのご紹介
エコツアーのお知らせ
2011年報告書アンケート結果

エコカード基金の10周年を記念して

いのちとココロを育む

「種まき塾の

里親プロジェクト」を実施

10年目を記念して何か特別なプロジェクトを実施したい、ただのイベントではなく、いつもご支持をいただいている会員の皆さまが参加できるような形で、という想いが、この「種まき塾の里親プロジェクト」の出発点でした。
里親様に栽培キットをお送りして、種から苗木を育てていただくというこのプロジェクト。昨年の活動報告書でお知らせしたところ、1352人というたくさんのご応募をいただきました。昨年9月から10月頃までの間、里親様のもとで育てられた苗木を種まき塾に返送していただきました。これらの苗木は、今後数年かけて成長し、北海道各地の植林に使われます。
(3ページ目につづく)

里親のみならずから送っていただいた苗木。北海道の寒い冬を越え、春を迎えて、新たにたくさん芽が出ています。

エコカード基金事務局でも育てました！

植林予定地の一つ、旧富良野プリンスホテルのゴルフ場。ここは森に還すべく、植林が進められています。

【プロジェクトの流れ】

栽培キットをお届け

7月↓

会員のお手元で種まき・発芽

8～10月↓

種まき塾に返送・成長

数年後↓

苗木として植林

種まき塾より

苗木を育ててくださったみなさん、ありがとうございました。芽が出ず残念だった方がたくさんいらっしゃいましたが、春を迎えて続々と芽が出てきています。かけていただいた愛情はむだにはなりませんので、ご安心ください。



返送していただいた皆さんの栽培キット。この日も新しい芽が出ていました。



冬を越えた5月の富良野。遠くに十勝岳を望みます。

理事長メッセージ



コスモ石油エコカード基金
理事長
荻原 宏彦

会員の皆さまとともに、
よりよい未来を目指します。

このたび、コスモ石油エコカード基金理事長に就任しました荻原宏彦と申します。どうぞよろしくお願いたします。

コスモ石油エコカード基金は、「ずっと地球で暮らそう。」という理念のもと活動に取り組み、会員の皆さまに支えられて、昨年10周年を迎えました。大きな節目となったこの年は、東日本大震災復興支援プロジェクトを含めた5つの活動を開始した一方、会員の皆さまに少しでも活動を身近に感じていただくこと、いのちとココロを育む「種まき塾の里親プロジェクト」を実施いたしました。会員の皆さまご自身が種を蒔き、約1カ月間育ててくださった小さな苗木は、やがて数十センチの苗木となり、何十年か後には北海道の大地を彩る豊かな緑の一部となるでしょう。一千人を超える会員の皆さまにご参加いただけましたこと、厚く御礼申し上げます。

これからも、私たちはエコカード会員の皆さまと地球環境保全への想いを共にし、今できることを実践してまいります。今後とも温かいご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願申し上げます。

2011年度ハイライト

東日本大震災復興支援 森は海の恋人



植樹祭には地元の子どもたちも数多く参加

笑顔がはじけたツリークライミング

「1ページ目からつづく本プロジェクトには、エコカード会員1352人のご応募をいただきました。栽培キットには、富良野の山から採った「エ」種と「ニ」種を使用。種は発芽しやすさと将来の植林用途を考慮して「ハルニレ」と「エゾヤマザクラ」の2種類としました。約2カ月後、栽培キットを種まき塾に返送していただいたのは、737人の里親の方々。返送時点で発芽していたのは3割ほどで、ほぼすべてハルニレの芽でした。里親様の手で芽が出なくても、冬を越えて、この春に新たに発芽するものもあります。5月中旬に視察に訪れた際には、ハルニレの芽がたくさん出ていました。種まき塾によると、夏にかけて徐々にエゾヤマザクラの芽が出てくるそうです。これらの芽は、夏の終わりにごろには大きいものから順に地面に植え替えられ、次の冬を越えます。そして3年から5年ほどかけて、植林に使う苗木に育てます。成長の様子は、今後もお知らせしていきます。



右の小さいのがこの春に出た芽(〜5cmほど)。左の大きいのが昨秋に出た芽(20〜30cm位)



エゾヤマザクラの花

植え替えを待つ苗畑。中央は3年物のエゾマツ、右手には5年物のエゾヤマザクラが育っています

エコカード基金 10周年記念

いのちとココロを育む

「種まき塾の里親プロジェクト」のご報告

芽が出た方、残念ながら芽が出なかった方からも たくさんのメッセージをいただきました。



里山に植林をして豊かな三陸の海を守る

エコカード基金は「環境」という視点からの震災復興支援として、地震と津波で甚大な被害を受けた宮城県、気仙沼市で里山の植林活動をするNPO法人「森は海の恋人」を支援しました。植林をして里山が豊かになると、川から海に流れ込む栄養分が三陸の海を豊かにしてくれます。2011年6月5日に岩手県一関市で23年目となる植樹祭を開催しました。約120人も参加者が集ま

り、復興への想いを込めて約千本の苗木を植樹しました。また、8月には、将来の自然環境を担う子どもたちへの環境教育として、3泊4日の子どもサマースクールを行いました。川遊びや生きもの観察、ツリークライミングをして大いに楽しみました。後日、保護者からは「子どもたちの笑顔が戻った」という感謝の言葉をたくさんいただきました。

新プロジェクトでエコツアーを開催

2011年度に開始した新しいプロジェクトの活動を参加して知ってもらおうと、エコカード基金会員を対象としたエコツアーを開催しました。

ムササビとともに暮らす 里山再生プロジェクト



間伐体験をした森近くの神社にムササビのすみ木があります。夜行性のムササビが、ねぐらとなる洞(うら)からえさを取りに飛び立つ「日没」の時間と、森から戻る「日の出」の時間に待ち構えて観察。じっと静かに息をひそめて待った甲斐あって、幸運にも全員がムササビを見ることができました。



ビオトープ浮島 水辺の生態系回復プロジェクト



3mを超える丸太や竹を組んでいかだをつくり、間伐材からの炭をココヤシの袋に詰め込んだものをくくりつけて完成。重量は約600キロにもなります。当日は9基の浮島をつくりました。写真手前が今回の浮島です。奥に写る数年前の浮島のように、いずれ植物が茂り、生きものが集まるようになるでしょう。



コスモ石油 エコカード基金

「ずっと地球で暮らそう。」 プロジェクトについて



コスモ石油エコカード基金では、「国内外の環境修復と保全」および「次世代の育成」をテーマに、持続可能な社会の実現をめざしています。

本基金で展開している「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトでは、「地球温暖化問題への取り組み」と「生物多様性の保全」という2つの分野について、環境問題には、貧困、食糧難、教育など、さまざまな社会的な課題が密接に関連しているという現実を踏まえ、本質的な問題解決に取り組んでいます。

2011年度からは、4件のプロジェクトが募集・選考を経て新たに追加されるとともに、東日本大震災の発生を受けて、東北の地域再生に貢献する1件のプロジェクトの支援を決定しました。

New 募集・選考を経て新たに追加されたプロジェクト

2011年度のプロジェクト

Table listing 15 projects from 2011, including: 1. 熱帯雨林保全 (Papua New Guinea/Solomon Islands), 2. シルクロード緑化 (China), 3. 南太平洋諸国支援 (Kiribati/Tuvalu), 4. 秦嶺山脈 森林・生態系回復 (China), 5. 内モンゴル緑化 (China), 6. 北タイ山岳地帯 共有林地図作成 (Thailand), 7. さとやま学校 (Nagano Prefecture), 8. 野口健 環境学校 (Japan), 9. 学校の環境教育支援 (Japan), 10. 種まき塾 (Hokkaido), 11. どんぐりの森 里山再生 (Nagano Prefecture), 12. ビオトープ浮島 水辺の生態系回復 (Iwate Prefecture), 13. 南太平洋諸国生態系保全 (Japan, South Pacific), 14. ムササビとともに暮らす 里山再生 (Yamanashi Prefecture), 15. 東日本大震災復興支援 森は海の恋人 (Miyagi Prefecture).

「生物多様性保全」をテーマに新しく4つのプロジェクトが追加されました。 P6でも紹介

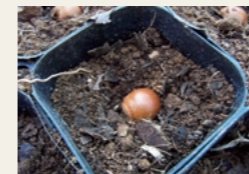
ムササビと共に暮らす 里山再生 (山梨県)
山梨県都留市周辺には里山がたくさんありますが、戦後の林業計画や住宅開発により、山林は荒廃し生態系のバランスも崩れている状態です。里山の生きものであるムササビは、すみかとなる大きな洞(うら)のある大木や、えさとなる葉や実をつける樹木、飛び回ることでできる適度な開闢の森林のある土地に生息しています。現在、都留市のムササビは数が減っていますが、再びたくさんムササビが暮らせる森を取り戻すことで、他のさまざまな生きものにも暮らしやすい生物多様性の豊かな里山を再生しようというプロジェクトです。



巣箱から顔を出したムササビ

どんぐりの森 里山再生 (長野県)

里山保全を進めていた地域で山火事が発生し焼失した4ヘクタールの森を、地域住民や地元の子どもたち、都会からのボランティアの方々とともに植林を行い、交流や環境教育をしながら里山を再生するプロジェクトです。「どんぐりの森」とは、地元の子どもたちによって焼失した森林に還す「どんぐり還し」計画を通じて、再びどんぐりが拾える広葉樹の森を取り戻そうという願いを込めて名付けました。



どんぐりから苗木を育てて森へ還す

ビオトープ浮島 水辺の生態系回復 (埼玉県)
開発により都市や住宅地ができ、便利で豊かな暮らしが広がる一方で、生活排水が流れ込む川や湖沼はコンクリートによる護岸が施され、自然の浄化機能が低下して水質悪化が進んでいます。こうした環境に、間伐材などを使った浮島を設置し、浮島に生えるアシや周りに集まる生物によって水質浄化を促し、さらに水辺の生態系の回復をめざします。また、浮島づくりの際には市民や子ども、企業、行政などに参加してもらうことで、問題の理解につなげていきます。



数年前に設置した浮島には鳥や魚も集まる



道なきジャングルの調査行

プロジェクト紹介

皆さまからの寄付金が、2011年度は15プロジェクトの支援に使われました。各活動のプロジェクトパートナーとともに、日本や世界各地で行った活動をご報告します。

より詳しい情報が掲載されています。「コスモ石油エコカード基金」のホームページを、ぜひご覧ください。

<http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/>

ホーム > 環境活動 > コスモ石油エコカード基金

プロジェクトを展開している地域

プロジェクト概要

当基金は2002年4月に発行を開始した「コスモ・ザ・カード・ハウス[エコ]」と、2006年6月に発行開始した「コスモ・ザ・カード・オーパス[エコ]」の会員(以下「エコカード会員」)の皆さまからの年間500円の寄付金と、コスモ石油グループの寄付金とともに、地球環境貢献活動「ずっと地球で暮らそう。」プロジェクトを展開し、今年で11年目を迎えました。



- 【日本】
- 7 さとやま学校
 - 8 野口健 環境学校
 - 9 学校の環境教育支援
 - 10 種まき塾
 - 11 どんぐりの森 里山再生
 - 12 ビオトープ浮島 水辺の生態系回復
 - 14 ムササビとともに暮らす里山再生
 - 15 東日本大震災復興支援 森は海の恋人

- 【中国】
- 5 内モンゴル緑化
 - 2 シルクロード緑化
 - 4 秦嶺山脈 森林・生態系回復
 - 6 【タイ】 北タイ山岳地帯 共有林地図作成

- 【オセアニア】
- 【パプアニューギニア】
 - 1-1 熱帯雨林保全
 - 1-2 南太平洋諸国生態系保全
 - 【ソロモン諸島】
 - 1-2 熱帯雨林保全
 - 【ツバル】
 - 3-2 南太平洋諸国支援

1-1 パプアニューギニア：熱帯雨林保全

エコカード会員×1.5人の支援(寄付金500円/人)で、1回の有機定置農業講習を受けることができました。

パプアニューギニアで、安定した食糧自給や現金収入のために、農業の技術指導と普及に取り組んでいます。2011年度は農業指導をした農家が作物の販売により貯金をして店を出すケースが生まれるなど、明るいニュースがたくさんありました。卒業した研修生の追跡調査では、小規模でも地道に継続している例が多くみられました。サンバム村では森の重要性が理解され、熱帯雨林保全の覚書を取り交わすことができました。



一つ一つ、ていねいに植林します



1-2 ソロモン：熱帯雨林保全

エコカード会員×360人の支援(寄付金500円/人)で、研修生1人が1年間、農業研修を受けました。

ソロモン諸島にて、過剰な焼畑農業を抑制し、安定した食糧自給や現金収入を確保するために、定置型有機農業の技術指導と普及に取り組んでいます。2011年度は、20人に1年間の研修を実施しました。専門家による肥料の分析や、精米所の設置等により、米の栽培・販売も徐々に増えてきています。



- 1-1 サンバム村の住民と植林
- 1-2 稲作実習で収穫した米を脱穀する
- 2 今年植えた苗もすくすく育ってほしい
- 3-1 地元の小学生もマングローブの植林に参加
- 3-2 子ども向けのごみ処理教育用ボードゲーム「Go-Meeel! (ゴーミー)」を囲んで

2 中国：シルクロード緑化

エコカード会員×1人の支援(寄付金500円/人)で、28本のサジーの植林ができました。

シルクロードの地、中国の黄土高原では急速に沙漠化が進んでいます。そこで、経済的な価値があり現地の気候に合う沙棘(サジー)を植林するべく、育苗成基地をつくって、地元の農民に苗を供給しています。2011年度は、50年に一度の大規模な干ばつにより、昨年植えた苗の多くが枯れてしまいました。しかし、数年前に植林した沙棘の中には、順調に育って実をつけるはじめてのものもあり、将来への期待もみえてきました。

3-1 キリバス：南太平洋諸国支援

エコカード会員×1人の支援(寄付金500円/人)で、マングローブを1.3本、植えることができました。

南太平洋にあるキリバスは海拔が低く、海水面の上昇や波による土地の浸食が起っています。そこで、海岸の浸食を防ぐためのマングローブ植林を、地元の若者や子どもたちとともに進めています。2011年度は、10月と翌2月に、あわせて8,413本のマングローブの種子を植えました。昨年度の植林分は75%が根付くなど、安定した成果が出ています。2012年度も地元の住民たちと共同で植林をつづけます。

3-2 ツバル：南太平洋諸国支援

エコカード会員×24人の支援(寄付金500円/人)で、環境教育ツールを1つ作り、子どもたちがごみ問題について学ぶことができました。

南太平洋のツバルでは海岸の浸食を防ぐマングローブ植林と、子どもたちへのごみ問題の啓発活動を行っています。2011年度は干ばつの被害を受けたものの、現地小学生とともに進めた1,200本の植林をはじめ、広範囲で植林を行いました。また、昨年制作した子ども向けのごみ処理教育用ボードゲームの現地語版を制作・配布しました。



4 中国：秦嶺(シンレイ)山脈 森林・生態系回復

エコカード会員×1人の支援(寄付金500円/人)で、12本の松の苗木を植林しました。

絶滅危惧種のキンシコウやジャイアントパンダなど、希少動物の宝庫である秦嶺山脈において、動物の移動を妨げる林道へ植林することで、森の生物多様性を取り戻すことが目標です。2011年度は14kmの道路に11,000本を植林しました。大学での環境講座や、キンシコウの生態についての研究の支援も継続しています。



5 中国：内モンゴル緑化

エコカード会員×1人の支援(寄付金500円/人)で、1人の小学生が環境教育を受けました。

沙漠化が進んでいる中国の内モンゴル自治区において、経済的価値の高い沙棘(サジー)の植林と、現地の小中学生に環境教育を実施しています。2011年度は、苗基地の大規模な土壌改良を行い、現地住民やツアー参加者により、20万本の沙棘挿し木ができました。植林から3年目の沙棘には実がなったものも多く、成果を実感することができました。地元住民の意欲も高まっており、さらに活動を推進していきます。

8 日本：野口健 環境学校

エコカード会員×217人の支援(寄付金500円/人)で、「環境メッセンジャー」1人が誕生しました。

自分から環境に対して働きかけ、多くの人にメッセージを発信できる「環境メッセンジャー」の育成を目的に、アルピニストの野口健さんを校長とした「環境学校」を開催しています。2011年度は佐渡島と白神山地で各1回開催し、延べ36人が参加しました。佐渡島では、トキの保護について学びました。白神山地では、3日間かけて険しい沢や山道などを通り、大いなる自然を感じました。



育て! 環境メッセンジャー



「村の百科事典」表紙の絵は村の子どもが描きました

- 4 西北大学生による植樹
- 5 成長して実がなった沙棘
- 6 みんなで話し合いながら地図作りを進めています
- 7 農家の方に昔の農機具の使い方を教わる
- 8 白神山地で川に浸かりながら進む

7 日本：さとやま学校

エコカード会員×60人の支援(寄付金500円/人)で、小学生1人が学校田で稲作を体験し、環境教育を受けました。

「里山」の保全・再生と、次世代を担う人材の育成を目的に、長野県飯綱町の耕作放棄地を活用し、農業教育プログラム「さとやま学校」を実施しています。飯綱町の農家の苗を都会の学校にある田んぼで育て、農家が学校に出張して授業を行うことで、食農や環境への意識の向上をめざします。また、雑穀栽培・販売や農作業体験ツアーなども行い、農村と都市部の交流を高めています。



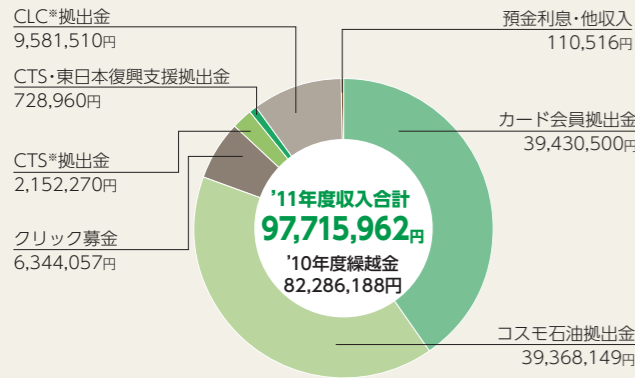
6 タイ：北タイ山岳地帯 共有林地図作成

エコカード会員×910人の支援(寄付金500円/人)で、1つの村の共有林の地図と「村の百科事典」を作成しました。

北タイ山岳地で、地元住民が森を利用して持続可能な暮らしを営むために、国有化された森を「共有林」として申請するのに必要な地図づくりをしています。また、村のさまざまな情報をまとめた「村の百科事典」を地図とあわせて作成します。2011年度は6村で地図を作成しました。作成した地図を、国との話し合いで使用するケースもできており、活用されはじめています。

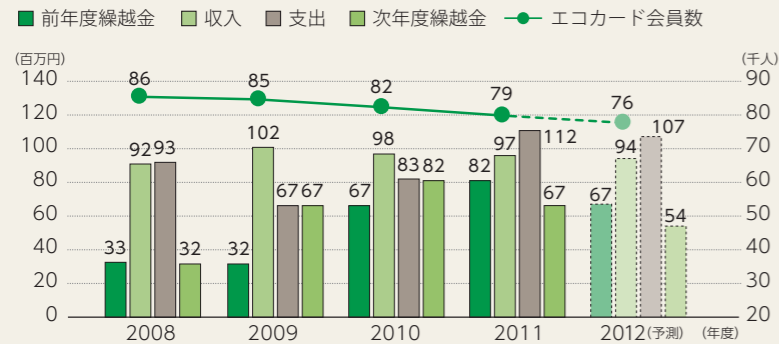
収支報告

【収入合計】

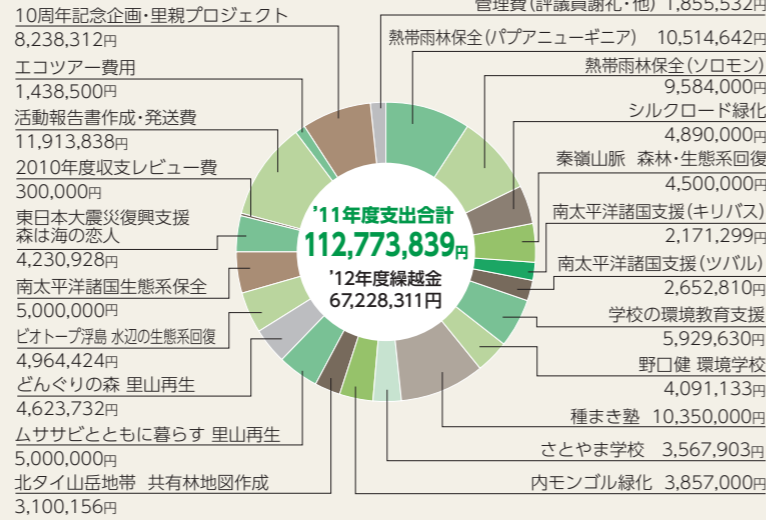


●補足説明
2011年度は新たに5つのプロジェクトが加わり、支出合計は1億12百万円となりました。収入は、コスモトレードアンドサービスからの東日本復興支援拠出金に加わり、合計9千7百万円です。これに前年度繰越金8千2百万円を加算し、来年度への繰越金は6千7百万円となりました。

【資産規模と会員数の推移】



【支出合計】



収支計算書に対する独立した公認会計士のレビュー報告書(抜粋)

私は、コスモ石油エコカード基金の委嘱に基づき、同基金の2011年度(2011年4月1日～2012年3月31日)の収支計算書についてレビューを行った。この収支計算書の作成責任は基金の代表者にあり、私の責任は、独立の立場から実施したレビューに基づき収支計算書に対する結論を表明することにある。日本公認会計士協会監査・保証実務委員会研究報告第20号「公認会計士等が行う保証業務等に関する研究報告」に準拠してレビューを行った。その結果、上記の収支計算書が、我が国において一般に公正妥当と考えられる収支計算の基準に準拠して、基金の収支の状況を適正に表示していないと認められる事項は、すべての重要な点において発見されなかった。

2012年5月16日 公認会計士 加藤 俊也

コスモ・ザ・カードのご紹介

コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」、コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」は、「地球のために何かしたい」という思いを実現するための、どなたでも参加できるカードです。

コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」、コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」は、お客さまから毎年お預かりしている500円とコスモ石油グループからの寄付金を、環境保全活動を行うNPOや公益法人などに寄付することで、その活動をサポートしていきます。

コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」
コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」
会員の皆さまからの寄付

コスモ石油
グループの寄付

地球環境保全をサポートする
「ずっと地球で暮らそう。」
プロジェクトを運営

入会后、および次年度以降の入会月に500円の寄付をお預かりします

コスモ石油プリカッツ株式会社

環境対応ディーゼルエンジンオイル
コスモECOディーゼルシリーズ
大気汚染物質の低減のため、DPF装着車が普及していますが、従来のディーゼルエンジン油では目詰まりを起こしやすく、触媒の性能を低下させるという問題がありました。コスモECOディーゼルシリーズは、この問題を起こす成分を削減し、さらにエンジンの長寿命化・省燃費化に貢献する製品です。この製品の売上の一部がコスモ石油エコカード基金に寄付されています。2011年度は、9,581,510円が拠出されました。



<http://www.cosmo-lube.co.jp/lub/lubproduct10.html>

株式会社コスモトレードアンドサービス

充電制御システム搭載車向け環境配慮型バッテリー
ECO.R
充電受入性が高く、バッテリー充電のためのオルタネータ(自動車の発電機)を動かす燃料を節約できるため、CO2排出量削減・燃費向上に貢献する製品です。この製品の売上の一部がコスモ石油エコカード基金に寄付されています。2011年度は、2,152,270円が拠出されました。



<http://www.cosmo-trade.com/goods/carcare/ecor.html>



コスモ石油のカードに関するお問い合わせ先

コスモ・ザ・カード・ハウス「エコ」
0120-987-622
携帯電話専用 03-4330-1660
月～土曜・祝日/ 9:15～17:30
日曜日/10:00～17:30
コスモ・ザ・カード・オーパス「エコ」
北日本 022-771-1500
東京 043-296-6200
中部 059-353-2100
大阪 06-4863-0100
年中無休 9:00～21:00

9 日本：学校の環境教育支援

エコカード会員×975人の支援(寄付金500円/人)で、1校の小中学校が1年間、環境教育を受けました。



自然体験プログラムなどのノウハウを持つ日本各地のNPOと学校をつなぎ、環境教育プログラムを提供します。2011年度は日本国内の10校を支援しました。実施の際は、教員との打ち合わせや、事前学習・ふりかえりをしっかりと行い、心に残る環境教育を行いました。2011年度で活動は終了となりましたが、子どもたちがこのプロジェクトで学んだことを暮らしに活かし、よりよい未来をつくってくださることを期待しています。

12 日本：ピオトープ浮島 水辺の生態系回復

エコカード会員×20人の支援(寄付金500円/人)で、1人がピオトープ浮島作成を体験しました。

2011年度は、埼玉県久喜市の権現堂調整池、埼玉県谷山市の大相模調整池、千葉県成田市の坂田ヶ池総合公園の3カ所で浮島づくりを実施しました。各地で子どもたちや大学生を含む80～250人ほどが参加し、3.5m四方くらいの大きさの浮島を2～9基制作しました。浮島は、間伐材や竹材をいかだ状に組み、間伐材からつくった炭などをココヤシの袋に詰めてくりつけたもので、林業振興の一助になり、炭による水質浄化の機能も持っています。



14 日本：ムササビとともに暮らす 里山再生

エコカード会員×103人の支援(寄付金500円/人)で、ムササビの観察入山調査が1回できました。

富士山の北東でムササビと人が共生する森をつくるこのプロジェクト、初年度は約100回にわたる入山調査を行いました。その結果、活動のフィールドとなる神社周辺の森で行ったムササビの生態調査では、2頭が生息していることがわかり、繁殖している可能性もみられました。また、周辺の山林を多くの野生生物が通過していることもわかっています。今後は、これまで放置されてきた山林を整備しながら、山林が生きもののえさ場となるよう、広葉樹の植林などを検討していきます。

15 日本：東日本大震災復興支援 森は海の恋人

[2011年度ハイライト]内で報告しています。3ページをご覧ください。



10 日本：種まき塾

エコカード会員×1人の支援(寄付金500円/人)で、3本の苗木を供給しました。



「ココロと大地にタネを蒔く」をスローガンに、樹木の種や実生(種から発芽したばかりの木)を集めて成長させ、北海道内で植林する団体に苗木を提供しています。地域に元々ある樹種を植えることが、本来の植生回復につながる考え、赤エゾマツやミズナラなどを育成しています。2011年度は8,008本の苗木を提供し、育苗・種まき体験には延べ620人が参加しました。また、里親プロジェクトに苗木育成のノウハウや技術を提供しています。

13 日本、南太平洋諸国：南太平洋諸国生態系保全

エコカード会員×5人の支援(寄付金500円/人)で、1人にシンポジウムで生物多様性保全の大切さを伝えることができました。

2011年度は、バブアニューギニアの現状把握と分析を行いました。「生態系・環境」「コミュニティ・教育・文化」「経済・農林」「知財・企業」「法制度」の5つの部会をつくり、専門的な検討を進めています。8月にはバブアニューギニアの現地調査、2012年3月には中央大学駿河台記念館にて、国際ワークショップを開催しました。特にバブアニューギニアでは、国土の97%が個人・共同体所有なので、生物多様性保護のためには土地改革が必要であることがわかりました。さらに検討を進め、有効な提案を検討していきます。



11 日本：どんぐりの森 里山再生

エコカード会員×1人の支援(寄付金500円/人)で、0.6本の植林ができました。

山火事跡から里山の復興を目指すプロジェクトです。まずは植樹ツアーを実施し、県外から集まった方々と地元ボランティアの方々によって、コナラやヤマボウシなどの苗木5,600本を、1.5ヘクタールの里山に植樹しました。そして、「どんぐりの森」をつくるためにどんぐりから木を育てる計画もスタートしました。保育園の園児たちが、散歩のときに拾い集めたたくさんのだんぐりを、1粒ずつポットや畑に蒔きました。このどんぐりから苗木を育て、2013年の春に植樹する予定です。

プロジェクト紹介
<http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/>
ホーム > 環境活動 > コスモ石油エコカード基金

皆さまからの寄付金が、2011年度は15プロジェクトの支援に使われました。各活動のプロジェクトパートナーとともに、日本や世界各地で行った活動をご報告します。

コスモ石油
エコカード基金



TOPICS

「コスモ石油エコカード基金」のホームページのご紹介

プロジェクトの全ぼうを詳しくお知らせするホームページとともに、現地視察の様子などナマの情報をお届けする事務局レポート(ブログ)をご用意しています。



コスモ石油エコカード基金 活動紹介
http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/eco/



コスモ石油エコカード基金事務局レポート
http://cosmooil.info/

1日1回の募金をインターネットから!

コスモ石油のクリック募金サイトでは、好きなプロジェクトを選んでクリックすると、クリックの数だけコスモ石油がエコカード基金に寄付します(クリックは1人1日1回まで)。2011年度は6,344,057回(=円)のクリックがありました。



http://www.cosmo-oil.co.jp/kankyo/charity/
ホーム>環境活動>クリック募金

モバイル版クリック募金はこちらから

モバイル版クリック募金には、コスモ石油公式モバイルサイトからも参加できます。



2012年度エコツアー参加者募集のお知らせ

エコカード基金のプロジェクトを体験するエコツアーに参加してみませんか。会員の皆さまにご支援いただいているプロジェクトを、実際に「見て」「聞いて」体験してみてください!

詳しい資料請求は同封のアンケートまたはホームページからお申し込みください。

ムササビのすむ森で大きなクルミの植樹体験

森林整備や広葉樹の植林によって生態系の回復を図り、ムササビの生息域を広げるプロジェクトです。今回のエコツアーでは、ムササビのすむ森に参加者全員で大きなクルミやブナの植樹を行います。

実施日 第1回 2012年10月13日(土)

第2回 2012年10月27日(土)

※内容は同じです。

場所 山梨県都留市(東京駅前集合・解散)

募集人数 30名(予定) ※原則エコカード会員のみ

費用 一人3,000円(予定。食事、集合場所～現地往復バス等含む)



ピオトープ浮島づくり体験

間伐材や竹、炭等、自然に還る素材を使って浮島を作り、湖沼に浮かべるプロジェクトです。作成した浮島は動植物の生息場所(ピオトープ)となり、水辺の生態系を回復する一助となります。

※ピオトープ: 動植物の生息場所

実施日 第1回 2012年9月8日(土) ※雨天の場合は9日(日)に順延

第2回 2012年10月28日(日) ※雨天の場合は11月11日(日)に順延

場所 第1回 香川県仲多度郡・国営讃岐まんのう公園(水鳥池)

第2回 埼玉県幸手市・権現堂調節池(行幸湖)

募集人数 20名(予定) ※一般参加者もいます

費用 無料



日本最大の環境展示会「エコプロダクツ2011」に出展

コスモ石油は、毎年12月に行われるエコプロダクツ展に毎年出展しています。2011年は、エコカード基金のプロジェクト紹介を中心にブースをつくり、たくさんの人に活動を知っていただきました。



メインステージはエコカード基金のプロジェクトをイメージしたとても大きな模型。手元の間伐材の香りに包まれながら、各プロジェクトの紹介を聞いていただきました。



木製「からくりツリー募金箱」。上からビー玉を転がすと森の動物たちが動きまわります。期間中、下にたまったビー玉の数だけコスモ石油が募金します。

完了したプロジェクト「循環型農業支援(フィリピン)」の今

2002～2010年度 [8年間支援]

フィリピン・パラワン島での循環型農業支援プロジェクトは、地場産業に乏しい当地の気候風土に適したエリ蚕飼育を行い、蚕から糸を紡ぎ、シルク製品を製造することで、女性の経済的自立につなげることが目的です。さまざまな指導・訓練の末、最終年までに品質管理と組織の運営、販売ルートを確認できました。指導を受けた女性たちからは、「エリ蚕の飼育から糸紡ぎ、地機織りまでたくさんの技術を身につけることができました(ジュネビさん)」「自分で紡いだ糸でスカーフを織るのはとても楽しく、製品が売れてお金が入ると最高にうれしいです。もっと努力して最高級品を作ります(マグダレナさん)」「はじめは何のためにしているのか理解できませんでしたが、今ではエリ蚕の事業が仕事だけでなく、収入の途をも作っていることがわかりました(アナリンさん)」などの声をいただいております。今もいきいきと仕事に取り組んでいます。

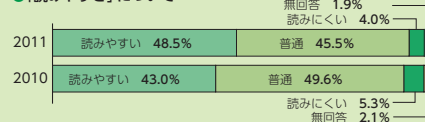


From Philippines

昨年度までのアンケート結果(抜粋)

活動報告書には、毎年、アンケートを同封しており、たくさんの方々にご回答いただいております。皆さまの意見をもとに、年々、読みやすさ、わかりやすさが向上しています。今年もぜひご意見・ご感想をお寄せください。

●「読みやすさ」について



●「わかりやすさ」について

